

第 108 回助産師国家試験分析報告

第 108 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、各設問の出題内容をタキソノミー分類および助産師国家試験出題基準目標別に分類した。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- I. 設問と解答肢の検討
- II. タキソノミー分類および助産師国家試験出題基準からみた出題内容のバランス
- III. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 108 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、不適切問題、課題のある問題はなく、すべて適切と判断した。

全体的に、解答に必要な情報が適切に記述され、出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多かった。その一方で、必要な情報が不足している状況設定、出題のねらいが絞られていない問題、状況設定内容と選択肢の繋がりが分かりにくい問題、明らかに誤りと思われる選択肢を含む問題、図を用いて極めて初歩的な助産技術の知識を問う問題（午前問題 16：早期母子接触時の母子の体位を問う問題、午前問題 28：新生児マスキリーニング検査の採血時の穿刺部位を問う問題）もみられた。

選択肢の総数は前回（第 107 回）の 134 肢から 1 肢減少し 133 肢であった。また、視覚素材を用いた問題は 7 問であり、前回（第 107 回）より 3 問減少した。

II. 出題内容のバランス

出題内容のバランスについては「出題基準別にみた出題テーマ」（表 1）、および「出題基準目標別の問題数と割合」（表 2）、「出題基準（小項目）別にみた出題数と割合」（表 3）を参照されたい。知識の想起・推定によって解答できる問題（タキソノミー I・I' 型）が 65.4%（第 107 回 57.3%）、複数の知識を統合して問題解決する能力をみる問題（タキソノミー II・III 型）は 34.6%（第 107 回 42.7%）であり、前回と比べてタキソノミー I・I' 型の問題が増加し、タキソノミー II・III 型の問題が減少していた。

助産師国家試験出題基準目標は、以下の 4 群 24 項目に分類される。

【基礎助産学】

1. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。
2. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。
3. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。
4. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

【助産診断・技術学】

5. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要な相談・教育について基本的な理解を問う。

6. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。
7. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。
8. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
9. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。
10. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
11. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
12. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。
13. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。
14. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある褥婦への支援について基本的な理解を問う。
15. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産褥婦への支援について基本的な理解を問う。
16. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
17. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。
18. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。
19. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。
20. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

【地域母子保健】

21. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。
22. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。
23. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

【助産管理】

24. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

「出題基準目標別の問題数と割合」(表 2) より、出題割合の多い順に、第 108 回は【助産診断・技術学】60.0% (第 107 回 57.3%、第 106 回 57.4%)、【基礎助産学】27.3% (第 107 回 25.5%、第 106 回 24.8%)、【助産管理】9.1% (第 107 回 12.7%、第 106 回 12.4%)、【地域母子保健】3.6% (第 107 回 4.5%、第 106 回 5.4%) となっており、【助産診断・技術学】【基礎助産学】の割合が増加し、【地域母子保健】【助産管理】の割合が減少していた。

また、タキソノミー分類は、タキソノミー I 型 50 問 (45.4%) (第 107 回 47 問、42.7%)、I' 型 22 問 (20.0%) (第 107 回 16 問、14.6%)、II 型 20 問 (18.2%) (第 107 回 24 問、21.8%)、III 型 18 問 (16.4%) (第 107 回 23 問、20.9%) であった。タキソノミー I 型 (知識の想起・推定によって解答できる問題) の割合が最も多かったことは、第 107 回と同様であった。

【基礎助産学】に関する問題の割合は、30 問 (タキソノミー I・I' 型 27 問、II・III 型 3 問) で全体の 27.3% であった。その内訳では、「周産期の正常経過等の基本理解」に関する問題 (1.8 ポイント増) の割合が最も多く、次いで「女性の健康支援のための基本理解」に関する問題 (1.8 ポイント減)、「リプロダクティブ・ヘルス支援の基本理解」に関する問題 (2.8 ポイント増) の順であった。また、「基本概念と変遷、基本姿勢」からの出題 (0.9 ポイント減) は 1 問であった。

【助産診断・技術学】に関する問題の割合は、66 問 (タキソノミー I・I' 型 34 問、II・III 型 32 問) で全体の 60.0% であった。問題数は、時期等の分類別では妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期、低出生体重児、乳幼児期の順に多く、また各時期 (乳幼児期、低出生体重児を除く) でみた「正常からの逸脱・ハイリスクの支

援」の問題は、妊娠期（2.8ポイント増）と新生児期（1.8ポイント増）で増加し、分娩期（1.8ポイント減）は減少していた。産褥期の割合は、同じであった。

＜妊娠期の診断とケアに関する問題＞の割合は最も多く、21問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型12問、Ⅱ・Ⅲ型9問）で全体の19.2%であり、前回（第107回）の12.7%から増加した。そのうち、「正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク妊婦への支援」に関する問題は13問（11.9%）であり、第107回（10問、9.1%）と比べ増加していた。「妊娠期の助産診断と支援」に関する問題は8問（7.3%）であり、第107回（4問、3.6%）と比べて倍増していた。

＜分娩期の診断とケアに関する問題＞の割合は2番目に多く、17問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型5問、Ⅱ・Ⅲ型12問）で全体の15.5%であり、前回（第107回）の16.4%と比べて減少（0.9ポイント減）していた。そのうち、「分娩期の正常経過の助産診断と支援」および「正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援」に関する問題が各8問（7.3%）であった。「分娩期の正常経過の助産診断と支援」に関する問題は、第107回（6問、5.5%）と比べ増加していたが、「正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援」に関する問題は、第107回（10問、9.1%）と比べ減少していた。「緊急時・搬送時の対応」に関する問題は、1問（0.9%）と第107回（2問、1.8%）に比べて半減していた。

＜産褥期の診断とケアに関する問題＞の割合は4番目に多く、6問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型4問、Ⅱ・Ⅲ型2問）で全体の5.4%であり、前回（第107回）と同じ割合であった。そのうち、「正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク産婦への支援」に関する問題は3問（2.7%）で、前回（第107回）と同じ割合であった。「産褥期の助産診断と支援」に関する問題は2問（1.8%）で、第107回（3問、2.7%）と比べて減少していた。また、「周産期の合併症への支援」に関する問題は、1問（0.9%）出題されていた。

＜新生児期の診断とケアに関する問題＞の割合は3番目に多く、11問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型6問、Ⅱ型5問）で全体の10.0%であり、第107回（9.1%）と比べて増加していた。そのうち、「正常な経過からの逸脱及びハイリスク新生児への支援」に関する問題が8問（7.3%）（第107回5.5%）と最も多く、次いで、「新生児の助産診断と支援」に関する問題が3問（2.7%）（第107回4問、3.6%）となっていた。

＜乳幼児期の診断とケアに関する問題＞の割合は最も少なく、3問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型2問、Ⅱ・Ⅲ型1問）で全体の2.7%であり、前回（第107回）の4.5%と比べて減少していた。そのうち「乳幼児の正常発達・発育の判断と支援」に関する問題は1問（0.9%）、「乳幼児の疾患と支援」に関する問題は2問（1.8%）であった。

＜低出生体重児、早産児の特徴・疾患・支援に関する問題＞は5問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型3問、Ⅱ・Ⅲ型2問）で全体の4.5%であり、前回（第107回）の3.6%と比べて増加していた。

【地域母子保健】に関する問題の割合は、4問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型3問、Ⅱ・Ⅲ型1問）で全体の3.6%であり、前回（第107回）の4.5%と比べて減少していた。そのうち、「母子保健行政と母子保健制度・施策」に関する問題が2問（1.8%）と最も多かったが、第107回（2.7%）と比べて減少していた。また、「母子保健の動向」および「助産師が行う地域母子保健活動の実際」に関する問題は、各1問（0.9%）であった。

【助産管理】に関する問題の割合は、10問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型8問、Ⅱ・Ⅲ型2問）で全体の9.1%であり、前回（第107回）の12.7%と比べて減少していた。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

「出題基準（小項目）別にみた出題数と割合」（表3）、「出題基準目標別の問題数と割合」（表2）より、タキソノミーⅠ・Ⅰ'型の主に知識を問うものは65.4%であり、第107回（57.3%）から8.1ポイント増加した。内訳をみると、タキソノミーⅠ型の割合は前回（第107回）より2.7ポイント増加し、Ⅰ'型が5.4ポイント増加していた。タキソノミーⅠ型の全体に占める割合が最多であったことは、前回（第107回）と同様であった。一方、タキソノミーⅡ型は3.6ポイント、Ⅲ型は4.5ポイント減少していた。

出題内容では、助産実践の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常および正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。【助産診断・技術学】か

らの出題では、分娩期と乳幼児期を除き、正常からの逸脱の予測と判断・ハイリスクの支援に関する出題の割合が、正常経過の助産診断と支援に関する出題の割合を上回っていた（妊娠期 4.6 ポイント差、産褥期 0.9 ポイント差、新生児期 4.6 ポイント差）。また、女性の健康支援のための基本理解、周産期の正常経過等の基本理解、妊娠期の助産診断と支援、分娩期の正常経過の助産診断と支援、産褥期の助産診断と支援、正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク褥婦への支援、低出生体重児の乳幼児の疾患と支援、母子保健の動向、母子保健行政と母子保健制度・施策、助産師が行う地域母子保健活動の実際、助産業務管理・運営に関する問題など、今日の助産を取り巻く課題とニーズに合致した内容が出題されていた。

今回の出題問題のテーマ、タキソノミー分類別の割合の変化は、今日の助産を取り巻く状況に応じたものであり、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題として適切である。

総括

1. 出題問題の検討については、不適切問題、課題のある問題ともなく、すべて適切と判断した。
2. 全体的に、概ね設問には解答に必要な情報が適切に記述され、出題の意図が明確で基本的知識を問う問題が多かった。また、視覚素材を用いた問題は 7 問であり、前回より 3 問減少した。
3. 必要な情報が不足している状況設定問題、出題のねらいが絞られていない問題、状況設定内容と選択肢の繋がりが分かりにくい問題、明らかに誤りと思われる選択肢を含む問題、図を用いて極めて初歩的な部位を問う問題（午前問題 16：早期母子接触時の母子の胎位を問う問題、午前問題 28：新生児マスキリーニング検査の採血時の穿刺部位を問う問題）、定義を知っていれば容易に答えられる問題もみられた。
4. タキソノミー分類別の出題問題の割合では、タキソノミー I 型（知識の想起・推定によって解答できる問題）の割合が最も多かったことは、第 107 回と同様であった。今回も前回（第 107 回）および前々回（第 106 回）と同様に、基本的知識の確認に重点を置いた出題傾向であった。
5. 出題内容では、助産実践の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常および正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。特に、【助産診断・技術学】からの出題では、分娩期以外で「正常からの逸脱の予測と判断・ハイリスクの支援」に関する出題の割合は「正常経過の助産診断と支援」に関する出題の割合より上回っていた。
6. 今日の助産を取り巻く社会背景を反映し、ハイリスク妊産婦・ハイリスク新生児、低出生体重児に対応できる能力を問う問題が多く出題されていた。また、母子感染、産後ケア、無痛分娩に関する実践的な問題、低所得世帯に対する社会資源、妊婦健康診査の公費助成や母性健康管理指導事項連絡カード等の母子保健行政に関する幅広い知識を問う問題、ステップファミリーや疾患を有する母子の状況設定の中で対象のニーズに応じた対応を問う問題、産後うつ等に関する問題が出題されていた。ウィメンズヘルスに関する問題では、プレコンセプションケア、性暴力、性感染症、乳癌自己検診等に関する基本的知識、臨床場面を想定した知識を問う問題も出題されていた。さらに、最新の知見をふまえた新生児の沐浴方法、自閉症スペクトラム症の幼児への対応、出生前検査、災害時の支援についても出題されていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。

以上